

サービス世界一の眼鏡屋を地域で作りたい (2015年4月号)

-やさしい眼鏡 うれしい雑貨-

学研都市線住道駅の住道本通商店街を東に抜けたところに、眼鏡 & ハンドメイド雑貨を取り扱うお洒落なお店があります。

コンセプトは『やさしい眼鏡 うれしい雑貨』。今月は大東支部 会員Green glassの関山さんを訪ねました。



Green glass 店長
関山 聡氏
(大阪東ブロック・大東支部)

●自分の理想とする眼鏡屋を作りたい

大阪商業大学商学部で経営の基礎を学び、1997年に大手眼鏡量販店のビジョンメガネに入社。働くまでは、特に眼鏡が好きというわけではなかったのですが、販売の中で老若男女の人々と接しれる楽しさ、眼鏡を調整する職人的な仕事や、店舗全体のマネジメントができることに眼鏡の販売にやりがいと楽しさを感じていきました。そして、年月を経て、自分の理想とする眼鏡屋をしたいとの思いが芽生えてきて、2011年7月に独立開業しました。

●やさしい眼鏡への思い

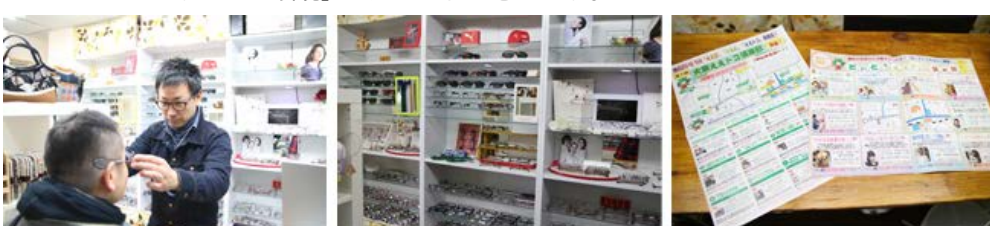
Green glass (グリーングラス) という社名は、目にやさしい自然な色である緑からきています。

コンセプトにある「やさしい眼鏡」は目にやさしい、疲れにくい眼鏡、身体にいい眼鏡(かけ心地がいい)など、深いこだわりをもっています。

眼鏡のフレームでその人の印象を変えることができます。お客さんと眼鏡を選ぶときも、しっかりと会話をして、その人がどんな印象を持って欲しいかを探します。ここが眼鏡の面白いところと関山さんは言います。

レンズの調整も、徹底的にその人に合わせていきます。

品揃えから、フレーム選び、視力調整。その人に合った眼鏡を提供し、快適な暮らしを送ってもらうことが「やさしい眼鏡」に込められた思いです。



●眼鏡のサイクルは約5年

眼鏡の買い替えサイクルは4.9年だそうです。眼鏡を買う、買い換える動機の一つは「便利がいい」ことらしいです。「便利がいい」には家から近い理由が上位にあります。

そのタイミングを逃さないために、関山さんは月1回「グリーングラスしんぶん」を発行して地域に発信しています。

毎月1万枚チラシを印刷をし、4000枚は新聞折込をし、残りの6000枚は早朝にポスティングをしているそうです。現在48号、毎月欠かさず続けています。

これによる効果も徐々に始まり、ファンが増え、毎年2ケタ以上の売上が伸びていっています。

●女性に人気のうれしい雑貨

眼鏡の他に、ハンドメイドのバッグやポーチ、小物入れなどの販売をしています。

関山さんのお子さんが小さいころ病気で、外出できない時期に、奥さんがミシンを購入し、雑貨づくりを始めたことがきっかけでした。

デザインが可愛く、作りがしっかりしているため、日増しにファンができ、店舗販売だけでなく、ハンドメイドのwebマーケットサイトtetoteでも非常に人気が高く、評価が高い商品です。

<https://tetote-market.jp/creator/gateMhandmade/>



●地域を盛り上げたい

住道本通り商店街のアーケードを抜けたところに店があるので、商店街には入っていません。関山さんは店の前の通りを「住道夢ストリート」と仲間と共に命名。この「住道夢ストリート」から地元を盛り上げていこうという取り組みを始めています。

さらに、周りの商店の方や、大東市の様々な分野の店を集め、「大東ええとこ倶楽部」を立ち上げました。

フリーマーケットをしたり、クリスマスなどには賛同者と一緒にイベントを企画するなど地元の方たちと触れ合い、一緒に大東市を盛り上げていこうとしています。

まだまだ大きな活動ではないですが、小さくはじめて、とにかく続けることが大切だと言われます。

●夫婦でめざす夢

いろんなことに挑戦する関山さんですが、思いついたらなんでもやるわけではありません。

関山さんが思いついたことに対して、まず奥さんは反対するそうです。

そのあと、もう一度じっくり考えて「やっぱりやりたい」となれば、奥さんは応援に回ってくれるそうです。

今は、こんな風に夫婦2人でがんばっていますが、これからもっと地元でサービスをするために、近い将来雇用をして、任していける人間を育て、店舗を増やしていこうと計画しています。

夢いっぱいGreen Glassさん、これからの進化が楽しみです。

文:山田 (大東支部)

Profile

Green glass

所 在：大阪府大東市住道1-4-9

設 立：2011年7月

資 本 金：300万円

事業内容：眼鏡と手作り雑貨の販売